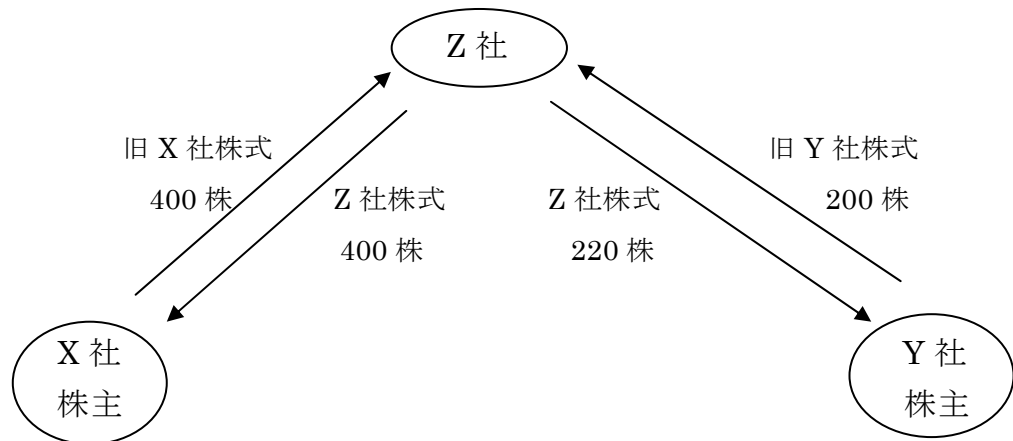


## フレッシュ・スタート法の会計処理例

1. X社とY社は共同でZ社を設立した。ただし、X社、Y社どちらもZ社を支配する事実はなかった。
2. 統合比率（Z社がX社、Y社の株主に交付する株式の比率）はX社、Y社の統合前6ヶ月間の平均株価（X社1,800、Y社1,980）に基づいて、X社株主へは旧株1株につき1株、Y社株主へは旧株1株につき1.1株とした。
3. Z社が交付する新株1株の発行価格は、統合のシナジー効果を見捨て、統合前のX社、Y社の企業価値（ここでは株価総額とする）の合計であらわされるZ社の企業価値を発行株式総数で除して得られる結合直後のZ社の1株当たり企業価値で表されるものとする。



$$\begin{aligned}
 & \text{統合時の Z 社の 1 株当たり企業価値（=新株 1 株の企業価値）} \\
 &= (\text{旧 X 社の企業価値} + \text{旧 Y 社の企業価値}) / \text{発行株数} \\
 &= \left\{ (1,800 \times 400) + (1,980 \times 200) \right\} / (400 + 220) \\
 &= 1,800
 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
 & \text{X社株主に支払ったのれん代} \\
 &= \text{合併対価} - \text{取得持分の公正価値} \\
 &= (1,800 \times 400) - (1,050,000 - 450,000) \\
 &= 120,000
 \end{aligned}$$

Y社株主に支払ったのれん代  
 = 合併対価 - 取得持分の公正価値  
 =  $(1,800 \times 220) - (540,000 - 150,000)$   
 = 6,000

Z社の側での仕訳

(諸資産)	1,590,000	①	(諸負債)	600,000	②
(営業権)	126,000	③	(払込資本)	1,116,000	④

① 統合前のX社、Y社保有の資産の公正価値合計

$$1,050,000 + 540,000 = 1,590,000$$

② X社、Y社の負債の公正価値（ここでは簿価と等しいと仮定している）合計

$$450,000 + 150,000 = 600,000$$

③ X社、Y社ののれん合計

$$120,000 + 6,000 = 126,000$$

④ Z社の1株当たり発行価格 × 発行株数

$$1,800 \times (400 + 220) = 1,116,000$$

合併直前の当事会社の財務データ

	X社	Y社
諸資産	850,000	400,000
諸負債	450,000	150,000
資本金	200,000	100,000
株式払込剰余金 (資本準備金)*	100,000	20,000
留保利益 (利益剰余金)*	100,000	130,000
諸資産の時価	1,050,000	540,000
発行済株式総数	400	200
平均株価	1,800	1,980

\* 教室で配布した資料にはカッコ書きはなかったが、ここでは、わかりやすくするため、制度上で用いられている科目名を付記した。